

平成 29 年国立公園満喫プロジェクト霧島錦江湾地域協議会 議事録

日時	2017年8月31日(木) 10:00~12:00
場所	宮崎県木材利用技術センター 管理棟 1階会議室
出席者	宮崎県 環境森林部長 川野美奈子 都城市 商工観光部部長 中島幸二 小林市 観光政策参与 矢野雄二郎 えびの市 観光商工課課長 吉留信也 高原町 副町長 横山安博 鹿児島市 ジオパーク推進室室長 山本倫代 指宿市 産業振興部長 上田薫 垂水市 水産商工観光課長 森山博之 霧島市 市長 前田終止 始良市 商工観光課長 原田正巳 曾於市 商工観光課長 荒武圭一 湧水町 副町長 宮園昭一 南大隅町 副町長 白川順二 (一社)九州観光推進機構 企画部長 井立田剛 (公財)みやざき観光コンベンション協会 観光推進局国務誘致部 杉尾重和 (公社)鹿児島県観光連盟 専務理事 白橋大伸 鹿児島県旅行業協同組合 旅行事業部長 本田静 九州森林管理局 計画保全部長 林視 九州地方整備局 事業調整官 堀康夫 九州運輸局 観光部次長 松野完治

【開会】

【環境省九州地方環境事務所 九州地方環境事務所所長 岡本光之氏】

私は8月1日付で九州の方に参りました。既にご存知の方もいますが、この直近の3年間、環境省の本省の国立公園課長をしており、この満喫プロジェクトの仕組み作りや34ある国立公園の中から8公園の選定等を担当しておりました。特にその選定の段階にあたりましては、本日まで参加いただいています、霧島市長から非常に強いご要請がございました、また、鹿児島県、宮崎県からも、是非とも一丸となって取り組んでいくので、是非採択との話があり、有識者会議での議論を踏まえて8つの公園の1つに選定をさせていただいた経緯がございます。この霧島錦江湾につきましては、本当にその火山の色々な素晴らしい景観、あるいは色々な形式の火山がありまして、小さいカルデラや大きいカルデラを合わせますと、これだけの地形の変化というもの1箇所凝縮して見られるという

場所というのは、あまり世界でも見られないのではないかと考えております。そういった素晴らしい資源というものを、どう活かしていくか。もちろんそれをしっかりと守りながら活かしていくということです。

国立公園の制度は昭和5年に「国立公園法」という法律が出来てからスタートしており、当時アメリカの国立公園を真似するような形で制度を考えていったわけですが、国会にその提案説明をする時に、実はその中の理由の1つが当時、外貨獲得だったわけなのです。当時、日本は非常に外貨が少なく、今で言うインバウンド、外国のお客さまをどう日本に呼ぶか、その時の大きな目玉として国立公園というものが出来上がったという経緯がございます。

今回満喫プロジェクトを実行していく上で、東京の方の会議の中でも非常に色々な方々から言われてきましたが、やはり資源である景観あるいは自然環境というものを見にいっちゃるので、景観が台無しであったら、観光客は来ないですし、1回来た外国の方もがっかりして帰ってしまうということではもともこもないので、そういったところをしっかりと進めていきたいと思いますということを言われております。

最後に私共、何故海外の方に着目するかということでございますけれども、1つは政府全体の「明日の日本を支える観光ビジョン」という中で、今2千万人達成している海外からのお客様を2020年までに4千万人、さらに6千万人の目標というものがある前提の中で進めておりますが、これを国立公園に落とし込む場合に、私は2つ、大きな意味があると思っております。1つは、まずその色々な地域の観光や資源を活かした活性化を考える時に、「よそ者の視点」というものが大事だと思っており、私自身も全国を経験しながら「よそ者の視点」として、地域の「よその者」から見て良い所や、地元の方には当たり前になってしまっているような資源が、非常に良いものがあると思います。海外の方は究極のよそ者でいらっしゃいますので、そういった視点で見て、非常にいい地域の資源、それは文化的な人の暮らしも含めてであると思います。食べ物もそうだと思います。そういったものを、外国人の方々の視点で見出していくということが1つです。もう1つは、海外の方のお客様は、「究極の旅行弱者」、弱い者、ということでの弱者でいらっしゃいます。それは言葉がなかなか通じない、漢字も分からない中で、いかにストレスフリーに来ていただくか、迷わないで歩けるように、楽しみな部分を楽しめる。そういった点が海外の方は究極の弱者であり、そういう方に対応出来るようなサイン計画や、パンフレット、インターネットでの発信、そういったソフト面での対応というものが出来れば良いと思います。

その2つというのは、日本人にとっての観光としても魅力に繋がると思いますし、先程のストレスフリーで旅行が出来るということは日本人にとっても、また来ていただける元になるのではないかと考えております。そのためこの取組は決して海外の方を呼び込むだけではなくて、日本の旅行客の方が9割です。日本の方々にも、もう1度国立公園を見直していただくということにも繋がるとい風に思っておりますので、この取組というのは、決して国だけとか、県だけとか、市町村だけでは出来るものではございません。

今日も民間の方々に来ていただいておりますけれども、皆さんと一緒に取り組むことで成り立つものであると思っておりますので、是非そういう点で色々のご意見を賜りながら、一丸となって進めていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【鹿児島県 環境林務部長 古園宏明氏】

鹿児島県環境林務部長の古園と申します。事務局を預かっている1人としてご挨拶を申し上げさせていただきます。本日はお忙しい中、この協議会にご出席いただきまして、大変ありがとうございます。

今このプロジェクトの意義につきましては、所長の方から色々とお話をいただきました。霧島錦江湾国立公園がこのプロジェクトの実施箇所として選定されまして、2年目を迎えることになりました。昨年度はプロジェクトの選定から非常に時間的に厳しい中、慌ただしい中で地域協議会の立ち上げ等、ステップアッププログラム2020の策定などに、皆様方と一体となって取り組むことが出来ました。大変ありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。このプログラムには2020年までの5年間における、インバウンド対策の取組の方向性が示されておりまして、現在も実施が進められているものもあれば、検討中のものもあります。これから検討を進めて、実に早急に移していく必要があるとも考えております。九州への外国人入国者の状況、これを見ますと、昨年が過去最高を記録したようであります。今年は、その昨年以上を推移しておりまして、年々増加している状況になっております。地域協議会の皆様方を始めといたしまして、地域の関係者がこれまで以上に連携、協力しながらこのプログラムに盛り込まれました取組を実施して、霧島錦江湾国立公園の魅力を引き出し、更なるインバウンドの増加に繋げていく必要があるとも考えております。これからこの協議会で色々ともた検討をしていくわけですが、速やかに実施して2020年の目標を達成する必要があると考えております。

終わりになりますけれども、プロジェクトの実施によりまして、より多くの訪日外国人の方がこの地域を訪れ、さらには当然のことではありますが、日本人の方々にもたくさん来ていただいて、観光振興を通じて地域の活性化を図る、まずはこれが大事でありますけれども、ひいては国立公園に代表されます地域の自然が、将来にわたってきちんと保全されていくことを期待いたしまして、簡単ではありますけれども私のご挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【霧島市 市長 前田終止氏 以下：前田霧島市長】

皆さん改めましておはようございます。ではご指名でございますから、一言ご挨拶をさせていただきます。国の関係の方々、また両県の関係の方々、関係自治体の皆様に参加していただいておりますが、首長としては私が一人だけ出席でありますので、そのような立場から代表として、思いのたけの一旦を申し上げておきたいと思っております。

先程の所長の話聞いておりましたけれども、日本の国立公園法の成立は昭和6年でしたか。チェックしておいて下さい。いずれ100周年になるから、それに向かって長い先を見た場合、貯めるべき予算の措置であるとか、あるいはアジアの世界を見ないやり方というのは、だめです。やはりあと数年したら、90年を迎え、それに10年足したら100年を迎える。その前に国は、どうしていたのですか。この国立公園に対して、こういう満喫プロジェクトの流れを知りながら、きちんと行われることが大事であると思います。あとは4県の方々と、九州の環境省の出先の方々にこの際、しっかりと一緒になってもっとやろうということを申し上げておきたいと思っております。

一昨年の3月、関係者に発信があって、このプロジェクトの存在というものが我が国全体に一気に広がったわけですが、先程おっしゃられたような経緯もあって、これは、私は見逃すことが出来ない

と思い上京し、特別交渉もさせてもらい、今日に至っているわけです。

その際ご理解を賜って、有り難くも、心の底から感謝を申し上げます。現在、34 の国立公園があるわけでございますけれども、その中で 8 つのモデルケースに選定されたことで、私共地域の目玉となりましたこと、地域を代表しての感謝を申し上げておかなければいけないと思います。

その後、この協議会において昨年の夏、矢継ぎ早に年末を目指し、皆でとてもスピードを持ってやったのです。そうやってきちんと申し込んで、遅れないようにやってきました。ただ、その後の両県と国との連携、一生懸命やってもらっているんでしょうけれども、結果として例年と変わらないような予算編成で、「何が満喫プロジェクトなのか」と。国家プロジェクトと言いながら、「本当にそうになっているのか」、「全く変わらないじゃないか」というようなことを僕は感じています。そこは是非、両県の担当者そして知事殿、議会、並びに我々の関係する両県の地域全体が、相互な認識をもっておかなければ両県の損失です。折角目標が見えているのですから。それをきちんとやらないといけません。

また半年、1 年遅れで後追いするようなものがあるから、「どうなっているんだ！」と。「何が国家プロジェクトだ！」と、僕なんかは思ってしまう、だから上京して行きました。それで、ただ私達自身も、両県の方々も、本気度を示さなければ、事は進まない。そしてそれが結果として何かと言うと、私は具体的にこれを実行、実践していただくの予算、それを 200 億以上あるのだから、それを確保されているのは、はっきり皆知っているのだから、それをきちんとやるべきなのが、あなた達の仕事でしょう、ということをお願いしたい。それで所長が、九州に戻られた以上は、とにかく最後までお願いします。それで私達両県も、関係する自治体、組織団体も、しっかりとそれを受け止めて前に行く予定を、皆猶予を持った考えであることは示していますから、それを実行しましょう。それじゃないと 2020 年、間に合いません。だから是非、徹底して、私共全体の地域と両県の担当者の方々もがっちり組んで、所長さんがおいでになった以上は、もう鬼に金棒です。頼みます。以上です。

【各出席者挨拶】

【議事 1 地域協議会設置要綱の改正】

(事務局から資料 1 に基づき説明、改正内容について了承)

【議事 2 国立公園満喫プロジェクトに関するこれまでの経緯】

(事務局から資料 2、参考資料 2 に基づき説明)

【議事 3 平成 29 年度の取組状況】

(事務局から資料 3-1、3-2、3-3、3-4 に基づき説明)

(共同事務局：宮崎県自然環境課、鹿児島県自然保護課から取組状況の説明)

((株) JTB から資料 4 に基づきファムトリップに係る取組状況の説明)

(事務局から資料 5 に基づき、えびの高原における上質な宿泊施設誘致検討の取組状況の説明)

【前田霧島市長】

ご苦労様でございます。本格的に議論をする前に、協力推進をしてきた立場の1人として、昨年の12月21日まで、非常に精力的にスピード感を持って協議会等を進めていました。そしてステップアッププログラムを作り上げて要請をしたという流れがあります。そしてもう明日から9月です。8か月間以上、何をしていたのか。鹿児島県、宮崎県。そして具体的に作ったプログラムに、予算がどれだけついているのか。その中で、どういう風に流れているのか、教えて下さい。本気でやっているのか。私としては、半年とか、この8か月以上、本当に皆で誠心誠意を持った協議なら地域に負けまいとやってきたはずなのに、その後の流れが予算をどう考えてみても、少なくとも私共の目に入る限りは、伝わっていない。しかし、国において補正予算が200億以上予算はあるし、その流れは始まっているはず。私達の地域は置き去りなのか、というようなことを申し上げたい。この後、両県の要請と言われても、目先も含めて、もっとスピード感を持って、やる気を示してくれ。それははっきりと申し上げておきたい。本気かよ、本当に！これから申し上げることはもう不満ではありません。まず、私達の地域として、やはりずっと思いを込めてやってきた以上、具体的にテーマを作って、それを皆で認め合って、そうやって予算化して2020年を目指していく以上は、やはり三か月、半年とか、1年を送りたくないわけですね。だから厳しく申し上げているんです。その中でえびの、医療センター、防災対応等、主要計画でやりました。それで鹿児島県はまだ国立公園霧島連山の中の、ビジターセンターは昔のまま。そして、約300年ぶりとなった新燃岳の噴火。新たな時代に備えてそれをやり直したいということを表明してやって、誰が見てもそれは理解出来る話であるわけですから、是非これについてきちんとやっていただきたい。高千穂ダムの整備、改修、そういうところは、国立公園活動の火山における火山活動、ジオにちなんだテーマ性のある展示の全面エリアです。そして天孫降臨の神話であるとか、新登山道とか、もっとソフトが、新たなテーマを、わかりやすく、訪れる、国立の公園ですから、それにふさわしい役目をきちんとやっていただきたい。あとは案内デスクの設置、登山口の販売コーナー設置、ソフト面の更なる充実、それをしっかりとやっておきたい。また駐車場についても、積極検討してほしいと思います。登山道の整備、安全対策、検討上でも申し上げた通り。そして2つ目、光通信網の整備。これはどの地域も似たような課題、問題があるかと思っております。満喫プロジェクトは、明日の日本を支える観光ビジョンの中の重要な事業として認識をいたしております。特に今の政府の成長戦略の大きな柱です。そして、その中で私達の各々の各地域が、それぞれの思いを持って色々と提案をさせてもらったわけですが、霧島市としては、実はパネルやパンフレットの4か国語化や、この音声ガイドシステムのように、早くから積極的にやっているわけですが、やっているものの、光通信になると高速回線の整備がなされておらず、市や民間でWi-Fiを整備しても、もう立ち上がりが遅くて、いらら感が大きくて、極めて機能が低いということが現状となっております。皆さんのところもそうでしょ？メッセンジャーではどうですか？おそらく同じ状況ではないかなと思うんです。ですから、通信網の所管は確かに総務省ですが、この点は霧島の課題であると認識をいたしております。インバウンド対策を含めて、遭難等における安全対策の上でも、この早急に取り組むべき共通事項として、環境省や官公庁を巻き込んで、国への働きかけを強く進められるべきであることを申し上げておきたい。協会としての要望を提出、是非ご協力を賜りたいという風に思います。この件については、私も上京して関係者に会って、連携した取組を強く訴えて参ろうと思っております。この光通信網の整備について

は、関係市町村全体の共通する鹿児島県内の課題ではないかと思います。これは全体の中で、全体の問題として最優先課題としてやらなければ、日本のそれぞれの8つのプロジェクトも似たような課題をかかえているわけです。徹底してやっていただきたいと申し上げておきます。先般地方創生の中で宮城県の知事を3期やられている総務大臣にもなった増田先生、この方とじっくり話す機会があって、今と同様の形で強く申し上げておきました。政府にそれを進言するというので、両方から関係者にもきちんと話をすると行っていただければ、やはり書いた紙ベースで、この協議会がしっかり言わないと、言ったことは紙ベースできちんと環境省も官公庁、総務省を超えてやっていく必要性を、この件については強く感じていますので、是非所長の方も、本庁に、また省庁にまたがっている問題ですから、共有し、2020年に目標を達成するには、そういうインフラを整備しなければだめですよ、ということでございますから、是非よろしく願いたい。

【九州地方環境事務所 九州地方環境事務所所長 岡本光之氏】

ありがとうございます。先程の1番目につきましては、県の色々なご要請ということで、2番目に国全体に対してということで、ご意見をいただきましてありがとうございます。更に通信網の整備という非常に重要な事項だという風に思います。先程市長もおっしゃられていたように、地域全体の取組要望ということもございますので、実はこの霧島錦江湾を8地域の1つに選定をさせていただいた、1つの有利性といいますが、それは前田市長が本当に中心になっていらっしゃる、環霧島の取組がある、ということで地域が一丸となっていらっしゃるということが1つの高いポイントでございました。例えば政府に対する要望というものは、今日私共政府側も来ておりますので、そういったものを受け止めて、先程おっしゃられました省庁を超えてということについて、私共も担当省庁に対してお願いをしていくというやり方があるかなという風に思いますが、いかがでしょうか。

【（公社）鹿児島県観光連盟 専務理事 白橋大伸氏】

鹿児島県観光連盟の白橋と申します。少しマクロ的な話で、この場で言う話ではないかもしれませんが、ぜひこの観光ビジョンの中で国立公園に1,000万人を担うということになれば、かなりの役割を国立公園は任されているなという気はいたしております。そこで今事業の説明が色々あったんですけど、やはり国立公園でインバウンドを進める上でのリーディング的なプロジェクトというものが、もう少し必要ではないかと思うんですね。もちろん国立園の性格から言って、アクティビティを伴ったビューポイント。そこで私の方で交渉の上で提案中なんですけど、歩く旅ロングトレイルというものをまずはえびの高原一帯から進められないかなという風に考えております。ご案内と思えますけれどもロングトレイルというのは、ヨーロッパのサンティアゴ巡礼の道等から発出されておまして、ヨーロッパでは富裕層を中心にかなり定着しております。アジアでも香港や韓国とか、こういう歩く旅というものが非常に普及してきているんですね。そこで、えびの高原を中心とした、イメージとしては50キロくらいの地域で出来ないかと。範囲としては、トレイルは霧島市、えびの市、湧水町。ここが出来たら派生させていって、環霧島に結び付けていけないかなという風に思っております。えびの高原の優位性というのは、空港から近い、あるいは高

速、あるいはレール、こういったアクセスの優位性。それから何と言っても温泉があると。歩いた後の温泉。それから、色々なハード面の整備がかなり進んでおり、景観、四季を通じた四季の移り変わりとか、歩くにはちょうどいい、コース設定を出来る地域ではないかと思います。実はですね、私が4月から関係の市町、宮崎のコンベンション協会さんにこの話をに入れておまして、実は明日、ロングトレイル第1回目の勉強会を、鹿児島市で行います。宮崎県、鹿児島市、約30名。それと、このロングトレイルにつきましては、南大隅でも現在検討をしているということで、南大隅からも参加していただくことになっております。そこでコンセンサスが得られたら、次に実際に歩いてみるとか、視察とか、シンポジウムといった形の協議会みたいなものが出来ればなと思っております。ちなみに、日本のロングトレイルは、18のコースが認定されておりまして、九州では国東半島、京都市街1周ロングトレイルとか、房総半島とか、中央アルプス地帯とかあるわけです。特に京都あたりはインバウンドのお客さんも多いということでも取り寄せているが、ガイドブック等もかなり充実しております。鹿児島の方では、この話ではないですが、奄美大島の世界遺産登録に向けて、喜界島から与論島までのロングトレイルが構想されているのではないかと。そういった歩く文化が、元々霧島地域には多いところであるので、そういう歩く文化があるので、全体がこういった動きの中でも、えびの高原を中心としたロングトレイルが実現出来るのではないかと。これは通年型になりますので、特に欧米だけではないんですけれども、中心となるリーディングプロジェクトになるようなアクティビティになるのではないかと思っております。今後このプログラムの中でもアクティビティー案として考えていただいて、出来れば御協力・ご理をいただきながら進めていきたいと思っております。あくまでもコンセンサスが得られることが前提ではございます。

【九州運輸局 観光部次長 松野完治氏】

九州運輸局でございますけれども、先程の霧島市長からの光通信のお話であるとか、各省庁色々な取組をきちんとやって、というお話が出ておりましたけれども、九州は国土交通省という形でこの観光ビジョンをきちんと進めるために、九州で議論するための場を設けておまして、その中には国土交通省の局でありますとか、総務省さんの通信運輸局、そして農政局さん、環境事務所さん等もお入りいただいて議論する場というものがございまして。当然、省庁がきちんとやっていかないと、それぞれの担当割ではなかなか難しいところがございますので、先程出ました光通信に関してのご意見につきましては、私共の方から総務省の担当者にお伝えをし、総務省さんでは光通信を進めないといけないという思いもお持ちでございますので、そういうご意見がこの場であったということを私の方から、九州総合通信局の方に、担当局の方にお伝えをしておきたいと思っておりますし、今回この満喫プロジェクトの霧島地区の課題、問題等、官公庁にかかわるようなところのデータについても、それを色々取り上げていながら、議論していきたいという風に思っておりますし、全体として推進出来るような体制をとってきたいという風に考えております。あとまた、色々なご意見の中であった課題、多言語での案内標識をきちんとしていただくとか、わかりやすくというようなことでございましたが、非常に多言語表示につきましては、例えば温泉という文字については、英語で「SPA」と表示したり、「HotSpring」と表示したりと、同じ県、同じ市町村の中でもばらばらに使っているところもございまして。この件に関しましては、8月の初めくらいに、九州各県の方に多言語表示に関するガイドラインを官公庁が作って

おりますので、それをきちんとやって下さい、ということで、周知の通知文も各観光協会あてに出しております、その中には各県は、各市町村の方にも色々な観光の取組にあたって表示がバラバラにならないように、ガイドラインを参照して、参考にして表示してほしいと。なおかつ、観光部局だけで考えるのではなく、道路でありますと、色々と道路標識等がございますし、各施設、色々な観光施設をお持ちでございますので、各自治体においても、観光の部署だけに任せるのではなくて、やはり道路標識であれば道路局とも連携をとりながら、また文化財施設であれば文化財課とか、そういう部署との連携をしながら、同じ市町村内に表示が外国人向けにバラバラにならないように、やっていただきたいというような通知を県に差し上げておりますので、多分、県の観光局の方からおいでの市町村については、観光局に言っているという風に思っておりますけれども、そういうことを通知しておりますので、官公庁のホームページにもPDFで多言語表示についてのガイドラインがございますので、それを見ていただいて、少なくともこの満喫プロジェクトで、関係している市町村においては、この取組をするにあたってそこは参考にしながら、バラバラにならないように、満喫プロジェクトエリアとして統一感をとれるような表示であるというようなこともお考えいただければという風に思っております。以上でございます。

【前田霧島市長】

今おっしゃられたことについて釈迦に説法かもしれませんが、この地方の現場のニーズの声として更に深掘りをして議論をされるけれども、地方の現場では実に効率的なことを重ねて、聞き届けておいで物を申し上げていただきたいと思います。例えば私達の地域に、霧島神宮というのがあります。それでざっと5億円近い金が投じられて、この全体の駐車場の工夫でありますとか、トイレを全く新しい台のところに使いやすくするとか、整備であるとか、全面的にやりました。それだけでもすごい観光客が、おいでになるわけですね。外国人の方々もおいでになる。そして我々もそれを察知しておりましたから、当然整備しました。しかしながら、光が来ていない限り、本当に不平不満の1年半ぐらいの間に、もう月を追うごとに、日を追うごとに高まっているということが地方のそういう実態です。もう1つは、定住移住対策を各自治体が頑張っておられます。そうやってこられたら、私達の地域においでになられた、新しい住民の方々、そういう人たちが、やはりインターネット社会で色々なところに飛び込むとしても、過疎地高齢化、諸所に厳しい中山間地に行ってみると、まったくその辺が弱い。我々も使えない。話にならない。観光地においても、一個人でも、地方創生、そういうことへの対応、あるいはインバウンド、そういうものに実態がはるかに遅れている。ここ数年。本当に厳しい実態であるということ、ここにおられる方々も認識なさっているのではないかと思います。あえてもっとスピード感を持って、徹底対応をお願いしたいと。先程おっしゃいました、この協議会の場において、国宛にきちんとそれぞれの紙ベースにして、是非届けていただきたい。もちろん我々も自治体等は、努力していくものと確信いたしておりますが、私自身もさらに起こそうと思っております。一自治体が、例えば霧島市が、それが十分でない会議を自前でやるとなると、満足するだけのものは、100億かかります。でもなかなかやる気マンマンになっても出来ない、そう簡単には。だから、一地方自治体の小さな地方都市でそういう実態が横たわっている。それもある県においては全県的にやっちゃっていることもあるし、小さいところはね。そのレベルの国政レベルの感覚で、各地方の不十分なところを、国が、国家プロジェクトと言う

のだったら、この8つの地域なんか、各省庁の壁を大いに乗り越えてもらって、今九州運輸局の方からお話があったような感覚で、皆でやはり乗り切っていかなければ、敵わないですよ、この件は。そこを徹底してやってほしいということが、それが1点。そして、両県の知事さんにおかれては、この満喫プロジェクトだけの問題でも、せめて1回くらいは省庁の本庁に乗り込んで、行っていただきたい。ただこういう協議会に来て、やってみるといって話ではないよ。その上にトップも動かして、そして全体をきちんとやっていかなくては、出来るものか。僕はそう思っています。そこをここで協議を重ねたものを、しっかりとそこを国に問題をかなえていって、8つに広げていただいて、今のこの場面があるわけですから。であれば、それをきちんと意思表示して、ただ現場の自治体だけが一生懸命になるわけではなくて、皆でやっていかなくてはならない。もちろんこの霧島会議というものも交流会議があります。湾奥会議、これも交流会議があります。環霧島会議はもう10年目、それで霧島錦江湾奥会議は6年目だと思っております。それらが年2回、本会議をやっていますから、今みたいな状態は当然、私としても両方の会長ですから、きちんと意思統一を図りながらやっていくことは十分です。ただ、やはり両県の知事さん方におかれても、具体的行動を起こしてほしい。

【宮崎県 環境森林部長 川野美奈子氏 以下：宮崎県川野】

宮城県としては6月に知事が環境省に行っています。

【前田霧島市長】

鹿児島県は？行った？手ごたえは？はい。あとで詳しく聞きます。いずれにしても相当な覚悟で動かなければ、数字として具体的に手ごたえがない。そこが僕は非常に危惧いたしております。次に、えびの高原の上質なホテルの誘致という概要がありましたけれども、僕はいいいことだと思うんですよ。私達は霧島連山全体で、そういう少しでも魅力を作っていくこと。これは、どのように連山をPRしたらいいのか。例えばあそこへえびの高原があって、よく泊まったものです。そこがずっと更地のままでどうするのかなと思っていたんですが、それが活かされるということはね、評価が出来ることです。それをどういう風にとらえて、どういう風に魅力的に利活用していくか。そしてそのかかる諸経費の中に、民間が、県か国が、地域が入っていくのか。そういうところを皆さんにわかりやすく、話を聞かせて下さい。

【宮崎県川野】

宮崎県です。まず現在場所の設定等をやっております、今後につきましては、民間との対話をまず実施したいと考えております。やはり設置運営では、民間の協力と言いますか、そこを導入しなくて難しいと思っておりますので、まずはこの対話をして、色々なご意見と言いますか、意見を聞いた上で3者に言って議論していきたい。その上で有識者会議におきまして、この意見も踏まえながら進めていきたいという風に考えてございます。

【前田霧島市長】

その場合予算は、民間が出すことになるんですか？国レベルで何か大きな支援があるんですか？

【宮崎県川野】

今のところ民間にお願いしたいということで考えております。

【鹿児島県 環境林務部長 古園宏明氏】

鹿児島県の古園です。市長が最初におっしゃった、高千穂ビジターセンターの件ですけど、鹿児島県として課題としてしっかり認識しておりますので、今後霧島市、役所等が連携をしながら国に助言いただきながら、やりたいと思っております。

【霧島市 市長 前田終止氏】

よろしくお願ひいたします。

【小林市 観光政策参与 矢野雄二郎氏 以下：小林市矢野】

小林の矢野でございます。まず環境省さんに質問をさせていただきます。資料3ですが、小林市の方で上質な宿泊施設の誘致を引き続きやっておりまして、ちょっとこちらの資料に。1つは環境省として、今後上質な宿泊施設の誘致についての位置付けというものは、どうなのかと思います。これはメインの赤字になっているような項目ですし、元々今回満喫プロジェクトになって、環境省さん、国の方からこれをご提示いただいて、作り込んだのですが、霧島部会の事務局の方からは、僕ら自治体の方でやって下さい、という風なことをいただいて、環境省さんが確認された上でということですよ。いわゆるお金側の問題は、置いておこうと思いますが、例えばその誘致に向けた支援だとかということは、本当にしていただけるのか、していただけないのか。そこについての政府見解はどうなのでしょか、ということがあります。あとは意見なんですけれども、今回JTBさんも来られているようですが、やはりどういう風にこのインバウンドの方を中心に来ていただいて、対話をしていただいて、歩いてもらってアピールしてもらってという、人の流れ、この戦略がないように感じましたので、その流れをしっかりと定めないうちに色々進んでいくと、どうなのかなという風に私は民間から今こちらに来ていますので、そう思います。そこら辺もそのビジョンということも含めて、戦略ですよ。やはり先にありきではないかなということは、正直思います。そうするとだいぶ色々なことが見えてくると思うんですね。そこについてどうお考えなのか。やはり、さきほど前田市長がおっしゃったように、やはりアクションが遅すぎると。これは何しているんだ、全然進んでいないなということを私は思っております。そういった意味でやはり早急な対応ももちろん要求されるんですけども、そういった戦略を描かないと、結局人がそこに来ないとか、使われないとかということにならないように、是非していただきたい。それから所長さんがおっしゃったように、自然を守るという話。ここについてもゴミ問題というのがあります。ゴミとか支援対策について、どうされるかというものを、きちんと横並びしておかないと、大小便の話でもあるんですけども、誰がそこで何万人から20万人に増やしたところで負担するのとか、誰が取りに行くのとか、こういったことも出てきますので、是非そこについては考えておられると思いますが、是非していただいて検討したいと考えております。我々としては、小林市の観光推進協議会、市の8団体、設立を4月11日にしたこともあるのですが、協

力することを、先に申し上げておきたいと思います。観光の方にフランス人のマーケッター、マーケティングの出来るサイトということで進めていきます。それだけを断続的に地元局でも頑張っていきたいなということ、全く前に進んでいないので、そういった形で協力していきたいということをお願いして、小林市として提言をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

後ろから恐れいます。只今いただきました、3点ございましたけれども、1点目のホテル誘致の件に関しては、先程ご説明申し上げたように、対象予定地が環境省の所管であること、えびの集団施設地区の中に位置するということから、国立公園の利用の中でも非常に重要な位置を占めるものと考えております。今回の満喫プロジェクトの主旨も踏まえまして、今後えびの高原エリアの利用をどのようなやり方を考えていくのか、それに沿った形でどういった活用をするのかというコンセプトの大部分を、今後宮崎県さん、えびの市さんと3者で、実行委員会形式をとっておりますけれども、その中でしっかりと協議をして固めながら、そこに民間の事業者にあたる方々の柔軟なご意見、ご提案を聞かせていただいて、考えていきたいという風にお話をしているところでございます。そういった中で、環境省としましては、今後国立公園、公園事業という枠組みの中でやっていただくことにもなりますので、外観的なところもそうですし、内容的にもその場にふさわしい内容となるように、最初に協議しながら作っていくということを考えておりますので、今後また随時ご報告したいと考えております。2点目の事業の戦略ですけれども、先程資料の3-4で少し触れさせていただきましたが、効果的な霧島錦江湾の今後のあり方、グローバル戦略につままして、おっしゃる通り骨子となるビジョンをどうするのかというところを、もう少し具体化する必要があると考えております。そのための情報として、特に欧米豪の来訪者をターゲットとした利用実調査なども、今現在細かい情報を受け取っておりますので、そういった中で、どういった情報、どういった内容をどこに向けて出していけばいいのかということ、検討したいと思っております。そこについても市町村さんはもちろん、他の方々も含めまして、しっかりと内容を考えたいと思っております。また本日午後の担当者会議等を含めて進めていきたいと思っております。事務局からは以上になります。他ご意見ございませんでしょうか。

【小林市 矢野】

支援いただけるということでよろしいですね。先ほど申し上げさせていただきましたように、支援いただけるのかという、書いてあることの報告は何回も聞いていると思うんですけども。全般的な話なんですよ。そもそもの話をしています。

【事務局】

ホテル誘致自体に今直接支援を出来るような明確な支援のプログラムが無いという状況ではあるんですけども、例えば小林市さんですと、生駒高原の方の町とか施設を誘致したいというようなご要望は承っております。現状として生駒高原というのが、そもそも国立公園の外になってしまっているということをご説明しているかと思うんですけども、ただそういった小林市さんのご要望がある程度具体

的になってきた段階で、その公園区域の編入ですとか、公園事業として位置付けるかどうか、そういった手続的なところがまず第1段階で出てくるかと思しますので、そういったところは最大限ご協力をしていきたいと思っております。

【小林市 矢野】

県民の思いもありますので、そういったことも含めてまたご相談させて下さい。

【九州地方整備局 事業調整官 堀康夫氏】

整備局です。今回初めてでこんな意見を言ってもあれですが、この事務局としては両県さんと環境省さんでやられるところですけども、例えば先程の光ケーブルのような話とか専門的なところは、関係省庁がありますので、そういったところにこの協議会から要請をかけて引かれればいいと思うんです。我々も光ケーブルを入れる入れ物とか、光ケーブル自体も持っていますので、そういったところのノウハウはある程度はあるんです。例えばそういうところではいきますと、観光の施策については運輸局さんの方がそういうノウハウがあるので、その形でご相談いただいて、もう他でやれるところというか、あるところは、そのところを利用していただいて、ここの国立公園の中の自然環境の難しさといったところを環境省さんが主にやられているのと、全体のマネージメントと言いますか、進捗のところをやって、あとの枝葉になっている細かいところはそれぞれの専門に任されるというような進め方をされた方がいいのではないかという印象を受けました。それは意見としてどうかということではありますが、今日出た意見をまた、きちんと形にしていくためには、そのような取組が必要ではないかということでございます。

【閉会】

【宮崎県 川野】

宮崎県の環境森林部、川野でございます。今日の会議、色々なご意見をいただいたところでございまして、特に私も宮崎県の環境事務局の局長としまして、このプログラムは2020年のおしりが決まっていると。そして20万人のインバウンドを実現するという、はっきりとした主旨目標がございます。それを実現するためには、本当に霧島市長がおっしゃったように、各自取組んでいかないと改めて実感したところございまして、次回この協議会の開催というものもあるので、開催時期が出ていまして、知っているんですけども、やはり今皆さんの気持ちの中で、プロジェクトの中で優先順位と言いますか、戦略的に全体的に進めて行かなくてはいけない部分、ネット環境とか、色々なことがございます。また環境省以外の方の省庁に、声を上げていかなくてはいけない部分も沢山あると思います。協議会は3月に開催するにしても、次年度に向けて予算をきっちり確保しなければいけない、取組を、ここを優先的にやっていかないといけないというコンセンサスというか、協議会として公的に取組まないといけないところをきちんと明確にして、きちんとそれを予算化に向けた取組も進めなければいけませんので、年度末までの間、今から各県、宮崎も鹿児島も、来年度の予算編成に向けての色々な市町村もそうですけれども、作業が進む、今から着手する段階に入っていると思います。その中で来年度何をやっていくか。それぞれの自治体で何に取組むか。共通でこういう予算確保について要望

を上げていく必要があるのだということも明確にしてやっていかなくてはいけないという風に考えておりますので、3月までの間、何回も事務方とやはりそういったものをきちんとすり合わせていながら、協議会として何を、アクションを起こすべきかということも、きちんと整理していく必要があるという風に今考えているところでございます。事務局を司っております宮崎県としましても、鹿児島県さんと環境省の皆さんと、きちんと調整しながら意見交換をしながら進めていきたいと思っております。是非2020年20万人のインバウンドを実現するためにも、ハード・ソフト両面から、計画的に実行性のあるものにしていきたいという風に考えております。皆さまこれからもご協力と、色々なご意見をいただきながら事務局としてもしっかりやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。